平成 21 年（2009 年）9 月 7 日

廃棄物学会ニュース

No.112
廃棄物資源循環学会

Japan Society of Material Cycles and Waste Management

廃棄物学会は、2008 年 12 月 1 日から一般社団法人廃棄物資源循環学会となりました

第20回研究発表会直前情報
いりゃあせ
どえりゃあ暑い名古屋へ

実行委員長　鈴木憲司

第 20 回廃棄物資源循環学会研究発表会が、9 月 17 日（木）～19 日（土）の 3 日間、名古屋大学東山キャンパス豊田講堂及び IB 電子情報館の 2 会場にて開催されます。例年は 11 月に開催されていた研究発表会が、今年は R'09 Twin World Congress（環境技術および資源マネジメント国際会議 2009）及び World Resources Forum 2009 の開催（9 月 14 日（月）～16 日（水）、於：名古屋大学、http://www.r2009.org/）に合わせたため、2 か月早い開催となりました。蒸し暑い名古屋での開催にも関わらず、今年も例年通り多数の研究発表（口頭発表：193 編、ポスター発表：94 編、国際セッション：48 編）が予定されています。加えて、特別プログラム、企画セッション、市民展示、国際シンポジウム「アジア太平洋地域の適正な廃棄物管理・循環型社会形成」、施設見学（ガス化溶融炉、愛岐最終処分場、他）などが予定されています。

2 日目（9 月 18 日（金）16：30-18：00　豊田講堂大ホール）に開催される特別プログラム「生物多様性条約 COP10 を 1 年後に控えて」（一般公開）では、来年名古屋市で開催される生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）を前にして、講演とパネルディスカッションを行い、参加者の皆さんと大いに考え、語り合います。これらの特別セッションの企画が、参加者の方々への有益な情報提供の場になればと思います。

1 日目と 2 日目の夕刻には、実行委員会、各研究部会、若手の会により、12 の企画セッションが開催されます。ここでは紙面の都合上、実行委員会が取り組む企画セッションについてのみ紹介します。他の企画セッションについては、すでにお送りしております参加案内をご覧ください。

G1　「伊勢湾台風から半世紀～災害廃棄物について考える」

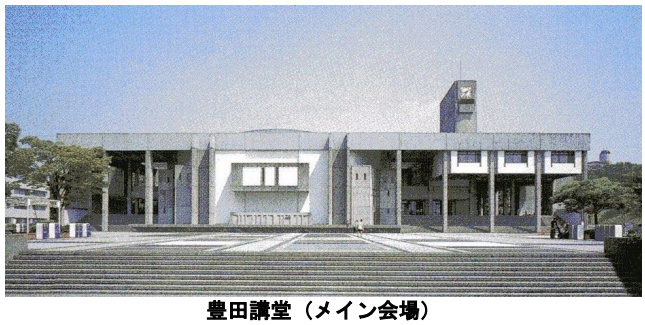
9 月 17 日（木）16：45-18：15　第 6 会場

自然災害の発生はある意味で避けようのない現実ですが、課題は災害による被害をできるだけ抑制することです。最近は防災においては、災害による被害を出さないための取り組みから、発生が予想される被害をできるだけ低減していく「減災」の考え方と、災害廃棄物対策の事前準備が極めて重要です。本セッションでは、この災害廃棄物に関する最新の情報交換を行い、災害廃棄物対策に関する議論を深めたいと考えています。

G2　「今「環境教育」について考える－学会・自治体・企業・市民団体の取り組みについて」

9 月 17 日（木）16：45-18：15　第 1 会場

東海・北陸支部では、環境教育に力を入れ、学校訪問などを通して生徒らへの環境に関する啓蒙活動を実践してきました。こうした取り組みには、学会だけでなく自治体や企業、市民団体も積極的に関与しています。本セッションでは、各取り組みを報告すると共に、実践で得られた教訓などについて議論します。



豊田講堂（メイン会場）

G3　「省ＣＯ$_2$型社会を目指す新しい技術－システムの構築とビジネス化に向けて」

9 月 17 日（木）16：45-18：15　第 2 会場

廃棄物焼却炉を始めとする地域内の中小規模排出源の排ガスから CO_2 を分離回収して農業や工業の生産活動に利用する研究開発、下水再生水の温度差を利用して発生させたエネルギーを、地域内で活用する事業など、来るべき省 CO_2 型社会における有望なビジネスの可能性を、代表的企業の 2 社から紹介します。

本研究発表会は例年に比べて 2 ヶ月早い開催ですが、実行委員一同、皆様の来名を心よりお待ちしています。残暑の厳しい名古屋でお会いしましょう。

IB 電子情報館

各委員会の役割と21年度事業計画

企画運営委員会　　委員長　西垣正秀

企画運営委員会は、①学会の企画・運営管理、②役員選挙、③表彰、④学会主催事業の企画・運営、⑤広報、⑥出版等を担当しています。これらの企画・運営を行うために、企画運営委員会の下部組織として事業計画予算部会、企画部会、広報部会、出版部会と、選挙、表彰、会員増強担当がそれぞれのミッションを担当しています。

事業計画予算部会は、主に年度予算計画と実行管理を担当し、会員減少による収入の落ち込みを、支出サイドの予算の縮減と会員増強でバランスさせるとともに、法人化の目指すところである外部受託研究等による外部資金獲得を目指しています。

企画部会は、テーマを「プラスチック焼却処理の安全性（仮題）」として「市民と学生のためのセミナー」を 11 月 27 日に開催を予定しています。また、テーマを「ごみ燃料化施設の見学と講演」として、「技術セミナー」を 10 月 21、22 日に開催を予定し、地球温暖化問題に関する内容を中心に「廃棄物資源循環学会シンポジウム」の企画を進めています。

広報部会は、学会主催行事や、会員サービスなどの情報の広報を担当しており、現在は、学会ニュースの作成、学会 HP の管理等を主に行っています。また、インターネットを活用した会員向けの各種情報発信を拡充していく予定であり、現在、会員のメールアドレス登録をお願いしています。

出版部会は、学会の学術研究内容を踏まえた話題性のある内容を廃棄物資源循環学会シリーズとして出版する活動を行っており、今年 4 月には 3 巻が同時発売されました。

会員増強担当は、個人会員、賛助会員の新規獲得に努力し、会員現象に歯止めをかけるべく尽力しています。また、選挙担当は、今年度末に行われる理事・監事の改選にあたり、選挙規程の見直しを含めた準備を進めています。

最後に、会員皆様の学会行事への積極的な参加と、学会の活性化に向けた取り組みについての積極的な関与をお願いいたします。

編集委員会　　委員長　貴田晶子

編集委員会では、論文誌の発行の電子化を進めておりますが、平成 21 年度以降の発行を次のように予定しています。学会誌は従来どおり年 6 号冊子版で発行します。和文論文誌は電子版発行へ移行し、平成 21 年度は 4 号を冊子版、2 号を電子版（J-Stage, CD-R）で発行します。平成 22 年度以降は、6 号とも電子版発行となり、当面は年 1 回、CD-R を会員へお届けします。なお、冊子版は、希望者への別途販売となります。

和文論文誌のアーカイブ化については、現在のところ、2007 年以降の発行分が J-Stage で公開されています。2006 年以前の発行分についてもアーカイブ化作業を進めております。和文論文誌の査読システムも電子化準備中であり、平成 22 年度には開始予定です。

和文論文誌アーカイブの公開アドレスは、下記のとおりです。

廃棄物資源循環学会論文誌：
http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjsmcwm/-char/ja
廃棄物学会論文誌：
http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jswme/-char/ja

英文論文誌（Journal of Material Cycles & Waste Management（JMCWM））については、平成 21 年より、韓国廃棄物学会との共同編集を始めました。また、個人会員に向けて電子版の公開（Springer LINK）の準備を進めています。

このような電子化を進める中において、会員が受け取る、学会誌・論文誌と会費との関係は次の通りとなります。

1) 個人会員は、冊子版の学会誌と、電子版の論文誌（和文誌・英文誌）を受け取ることを原則とします。
2) 和文論文誌電子版が掲載される J-Stage へは積極的アクセスを目的にフリーアクセスとしますが、和文論文誌への論文投稿者は、学会員資格を有することを条件とします。
3) 英文論文誌については、電子版購読が可能となるパスワードを個人会員に対して配布します。パスワード配布には、e-mail アドレスが必要となりますので、登録をお願いいたします。
4) 電子版化した和文論文誌と英文論文誌の冊子版は、会費とは別価格で販売します。
   和文論文誌冊子版の価格は、年 6 号分で 5000 円／年、英文論文誌冊子版の価格は、年 4 号分で 4000 円／年といたします。
   申込書は学会ホームページのサイト（http://jsmcwm.or.jp/）から入手できます。

論文誌の電子化によって、会員の皆様には以上のような変更を伴いますが、論文誌への投稿がしやすくなる、また論文情報が入手・発信しやすくなるメリットをご理解いただき、ご了解をお願いいたします。

学術研究委員会　　委員長　松藤敏彦

学術研究委員会の仕事は、大きく 2 つあり、学会員の研究発表・情報交換の場となる研究発表会の企画・運営・実施と、研究活動の運営管理・推進です。以前はそれぞれを年会委員会と研究委員会が担当していましたが、両委員会が統合された結果、現委員は大きな役割を担っています。

毎年秋に開催している研究発表会は、学会員の研究発表・討論の場であり、1000 人近くが参加して交流を深める学会最大のイベントです。したがって収益を上げることも期待されていますが、参加者、特に会員の中で高い割合を占める企業からの参加者数が景気後退のなかで減少しているのが悩みとなっています。参加の動機付けとなるような魅力あるプログラムにするため、本年は研究部会主催の小集会の名前を、企画セッションと改めました。これにより、企画セッションは、廃棄物に関する個々の分野の専門家からの情報発信の場であることが明確になり、ユニークなプログラムになったと考えています。細部についても、講演論文集の印刷版廃止、講演論文の 2 ページ化など、時代に合わせた工夫を続けています。平成 22 年度の研究発表会は、11 月 4～6 日に金沢での開催を予定しています。

春の研究討論会は、総会と合わせて開催していますが、秋と較べて集客力に劣るため、企画のさらなる充実と PR を図ろうと考えています。本年度は関連団体のパネル展示を行いましたが、互いの情報交換と、将来の協力のきっかけになることを期待しています。平成 22 年度の研究討論会は、5 月 20～21 日の開催が決定しています。

学会はいま、会員増強が最重要課題の一つですが、研究発表会と研究討論会を通じて、産業廃棄物処理事業者、自治体、市民などの新たな会員の発掘を目指しています。

研究に関しては、研究部会活動の支援を行っています。現在、研究部会は 10 を超えていますが、活動の公表方法は各部会に任せるなど、それぞれの活動方法に応じたサポートを行っています。各部会は専門分野のエキスパートです。セミナー開催、出版物の作成等による学会活動の社会還元を、大いに進めてもらいたいと願っています。また本年度はプラスチックリサイクルの一般書籍が部会によって執筆・発刊されました。社会に対する発信、発言を高めるため、他部会もあとに続くことを期待しています。

若手に対する海外渡航助成は、将来の学会活動を担う人材育成につながるものとして、できるだけ多くの援助を行いたいと考えています。

国際委員会　　委員長　松藤康司

廃棄物学会は本年度より「一般社団法人・廃棄物資源循環学会」として新たに出発しました。これまでの本学会の取り組みは多くの問題解決に少なからず貢献出来たと考えています。

しかし、約 20 年間の活動の下で廃棄物を取り巻く状況の変化で新たな課題も明らかとなっています。地球規模の資源エネルギー問題や低炭素社会構築に向けた取り組みを考えると、学会の活動の視点を対症療法から原因療法的取り組みへ転換することが必要でしょう。

国際委員会としては、日韓廃棄物学会協力協定を基軸にしつつ、活動の範囲を発展させアジア太平洋廃棄物専門家会議（SWAPI）を過去 5 回開催いたしました。本年も、環境省をはじめとし、廃棄物環境関連の諸団体の御支援の下で、第 6 回 SWAPI 会議を名古屋で開催致します。

また、日韓シンポジウムを更に発展させ、本学会、韓国廃棄物学会、そして SWAPI と共同で国際シンポジウム（廃棄物埋立と地球温暖化）と、ハイブットポスターセッションに衣更えした国際ポスターセッションを開催致します。

アジア太平洋における廃棄物資源循環に係わる情報と研究の発信基地として、また、若手研究者の交流の場として、国際委員会が少しでもその任を担えれば望外の喜びです。会員の皆様の多大な御支援と御協力をお願い致します。

■□　九州支部　■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

平成 21 年 5 月 16 日

平成21年度廃棄物資源循環学会九州支部総会報告

平成 21 年 5 月 16 日（土）、平成 21 年度九州支部総会、理事会、講演会、懇親会をホテルレガロ福岡（福岡市）において開催した。

総会は、会則の定める定数を越える出席数を得て成立した。まず、平成 20 年度における事業報告、収支決算報告、監査報告が行われた。続いて、平成 21 年度における事業計画案、収支予算案、そして本部名称および規程の変更に伴う九州支部運営規程の変更について審議が行われ、いずれの議案についても満場一致で原案通り承認可決された。

また、総会後の理事会において、平成 21 年度－22 年度の 19 名の評議員が承認された。なお、支部規程については、一般社団法人化に伴い学会共通のものに見直される可能性があるが、それまでは現行通りで運営していくことが確認された。

講演会には 55 名の参加があった。講師として福岡県保健環境研究所吉村健清所長をお招きし、本年で油症発生から 40 年の節目の年を迎えることから「油症 40 年から学ぶもの」と題してご講演を頂いた。講演は、油症事件の始まりから、油症の疫学的方面からの原因追求、油症の原因物質、油症患者のその後、油症患者の死因、国外のダイオキシン汚染問題、油症事件からの教訓に至る幅広い内容で、講演後に活発な質疑応答が行われた。

懇親会には 27 名の参加があり、会員相互の近況報告や情報交換、学会活動に関する意見交換が活発になされた。　（九州支部　池浦太荘）

■□　中国四国支部　■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

平成 21 年 6 月 26 日

「平成21年度廃棄物資源循環学会中国四国支部総会・講演会」開催報告

平成 21 年 6 月 26 日（金）、広島工業大学広島校舎（広島市）において平成 21 年度中国四国支部総会および講演会が開催された。

総会では 15 名の出席者および 91 名の委任状提出者を受けて、平成 20 年度の事業報告、収支決算報告および会計監査報告が行われ、承認された。また、今年度の事業計画および予算計画が説明され、審議の結果、承認された。さらに、本年度は支部役員の交代の時期に当たることから、今岡務支部長（広島工業大学教授）、中平徹也副支部長（財団法人岡山県環境保全事業団環境学習センター所長）および奥田哲士幹事長（広島大学環境安全センター助教）の新体制で今後 2 年間の活動を行うことが提案され、承認された。

平成 21 年度の本支部の主要行事としては、当日の支部総会・講演会に加え、廃棄物(循環資源)セミナー・見学会の開催、ニュースレターの発行ならびに支部奨励賞の表彰などが予定されている。見学会については、本年 9 月 11 日(金)に東広島市賀茂環境センターにおいて開催する方向で準備が進められている。

支部総会に続いて、中国四国地域で恒例となっている本支部と社団法人大気環境学会ならびに社団法人日本水環境学会各中国四国支部との合同講演会が、51 名の参加者のもと開催された。まず、「最近の光化学オキシダントの動向について」と題して、山口県環境保健センター・長田健太郎氏から光化学オキシダントの原因解明、中国四国地方の特徴、山口県の取り組み、韓国との広域共同調査などについて豊富なデータに基づいたお話があった。続いて、広島工業大学・内藤望准教授から「ヒマラヤの氷河縮小と氷河湖決壊洪水」と題して、ヒマラヤの氷河の現状と特徴、地球温暖化と氷河の関係、今後の展望などについて、多くの写真を交えた話題提供があった。最後に、「廃棄物・環境・文化」と題して、青山勲前支部長（岡山大学）から環境問題の文化的背景や環境研究の在り方などについて幅広い視点から大変示唆に富んだお話があった。講演後の交流会においても、学会の枠を超えた活発な意見交換と懇親が行われ、参加者にとって大変有意義な一日となった。　（中国四国支部　今岡務）

学会主催セミナーとシンポジウムのお知らせ

企画運営委員会企画部会では、今年度次のようなセミナーおよびシンポジウムを企画しています。日程順に概要をご紹介しますが、詳細は随時ホームページ等によりお知らせします。皆様、ぜひ奮ってご参加ください。

(1) 技術セミナー

テーマ：地域における廃棄物系バイオマス循環利活用事例

日程：平成 21 年 10 月 21 日（水）～22 日（木）

概要：21 日 13 時～17 時、北海道大学学術交流会館会議室にてセミナー開催。北海道大学大学院教授古市徹氏による基調講演「北海道におけるバイオマス利活用の取組み」ほか、地域融和型バイオマス利活用システムとして、自治体および民間企業それぞれの取組事例の紹介、生成物であるバイオ燃料の供給ビジネスに関する講演の計 4 講演を予定。

翌 22 日は 1 日目の講演と関連する 2 施設を見学。8:30 札幌市内発バス移動で①（株）アレフ北海道工場，②eco リサイクルセンターしらおい、を見学後、15:30 新千歳空港、16:30 札幌市内着解散予定です。

なお、講演のみあるいは施設見学のみの参加も可能です。秋のベストシーズン、北海道を訪ねてはいかがですか。ご予定にお入れください。

(2) 市民と学生のためのセミナー

テーマ：プラスチックごみ混合焼却処理と排ガス・環境への影響

日時：平成 21 年 11 月 27 日（金）13:00～17:15

場所：専売ホール（東京都港区芝 5-26-30、JR 田町駅）

概要：焼却処理からの排ガスと環境影響という課題に焦点を絞り、排ガスに含まれる各種の物質についての基本的な知見を整理するとともに、東京 23 区でのプラスチック混合焼却試験調査の経過データ等を題材に、環境との接点で考えるべきポイントを提示します。

講演（13:05～15:55）：①「焼却による無機汚染物質・重金属の排出」京都大学大学院 高岡昌輝氏、②「焼却による有機汚染物質の排出」（独）国立環境研究所 野馬幸生氏、③「東京 23 区におけるプラスチック混合焼却実証実験」東京二十三区清掃一部事務組合 小林正自郎氏、④「焼却による環境リスクをどう考えるか」横浜国立大学大学院 益永茂樹氏。なお、いずれの講演タイトルも仮題です。

パネルディスカッション（16:10～17:15）：「焼却と環境との関係をどう考えるか」コーディネーター川本克也（企画部会長、(独)国立環境研究所)。演者とともに市民パネラーを交えたディスカッションを行います。

(3) 廃棄物資源循環学会シンポジウム

テーマ：低炭素社会をめざす廃棄物処理のあり方（仮）

日程：平成 22 年 2 月 18 日(木)午後

場所：専売ホール（東京都港区芝 5-26-30，JR 田町駅）

概要：学会監修図書「地球温暖化と廃棄物」（中央法規出版）執筆者らを迎えて、低炭素社会をめざす廃棄物処理のあり方を展望し、それに関する技術的・制度的課題と対応策などについて考えます。

基調講演として、(独)国立環境研究所特別客員研究員 西岡秀三氏から、低炭素社会像について概説、展望していただきます。続いてパネルディスカッションに移り、シンポジウムテーマ「低炭素社会をめざす廃棄物処理のあり方（仮）」のもとに、北海道大学大学院 松藤敏彦氏がコーディネーターとなり、パネラーに(独)国立環境研究所 森口祐一氏、京都府立大学　山川肇氏、（株）タクマ 角田芳忠氏、京都大学大学院 高岡昌輝氏（予定）を迎えて、各パネラーからの発表の後、総合的な討論を展開します。骨太なシンポジウムを目指します。

Ｅ－mailアドレス情報のご提供お願い

会員の皆様には、学会ホームページ、研究発表会登録用紙、学会からの郵送物の封筒などを利用してＥ－mail アドレス情報のご提供をお願いしております。しかし、現在、1075 名の方々の登録（会員総数の約 33%）にとどまっております。

本学会では、学会員への迅速な情報提供、学会事務の合理化や資源保全の観点から、今後、学会からの連絡や情報提供を、紙ベースからメールニュースをはじめとするインターネットシステムの利用に積極的に切り替えていく方針であります。例えば、編集委員会では、英文論文誌については電子版発行を基本とし、原則 E-mail アドレスを登録された方だけが Web 上で閲覧したり印刷できるシステムの導入を検討しております。また、この学会ニュースも内容の抜本的な変更とともに、郵送による提供を取りやめ、ホームページ掲載とＥ－mail アドレス提供者への送信のみとすることを検討しております。

このような本学会の情報提供システムに関する方針にご理解をたまわり、Ｅ－mail アドレス情報の提供はそのための必須要件であると認識していただき、積極的なご登録を切にお願いいたします（登録は学会ホームページ上の登録システムをご利用ください）。また、登録されたアドレスは、本学会事務局の会員データベースで管理され、学会員皆様の個人情報につきましては、厳重な保護を行っていく所存でございます。

（企画運営委員会広報部会　部会長　片柳健一）

平成 21 年度会費納入について

平成 21 年度の会費につきまして、正会員・学生会員・登録団体市民会員の方には郵便払込取扱票を、公益会員・賛助会員のご担当者には請求書を 4 月上旬に送付させていただき、5 月 31 日までに納入のお願いを差し上げております。なお、未納の方へは 7 月末に再度、郵便払込取扱票又は請求書を送付させていただいております。早急に納入下さいますようお願い致します。

また、学会から送付します郵便物等が「あて所に尋ねありません」「転居先不明」として返送されておりますので、再度入会時の住所、所属等に変更がございましたら学会事務局へご連絡をお願い致します。

また、今年度は、一般社団法人廃棄物資源循環学会第 11 期役員選挙が行われます。

一般社団法人廃棄物資源循環学会定款第 17 条、一般社団法人廃棄物資源循環学会役員候補者選任に関する規程第 4 条第 5 項**「理事候補者、監事候補者ならびに理事候補者を推薦する者は、当該年度の 9 月 30 日において、当該年度までの会費を納入していなければならない。」**と規定されておりますので、該当されます方は会費の納入をご確認下さい。

【お知らせ】

学会ロゴマークの公募は、〆切を 10 月 31 日まで延長します。

公募の詳細は、学会ニュース No.111、または、学会ホームページをご覧ください。

＜JSMCWM　Newsletter No.70 (Oct.)＞

アジア太平洋廃棄物専門家会議(SWAPI)が 9 月 16～18 日に開催されます。そのため、この開催結果をお知らせするべく、70 号の発行は、10 月 20 日頃となる予定です。主要記事としては、SWAPI 報告のほか、使用済み小型電気電子機器回収の最新動向、メキシコでの 3R 推進報告、若手の会の活動報告を掲載します。

（主要目次）

巻頭言（秋の大会に向けて）
リサイクル法対象外の e-waste 回収の最新動向
メキシコでの 3R について
SWAPI 報告
若手の会の活動報告

※JSMCWM Newsletter は電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会ホームページから入手できます。

==========

Contents of JSMCWM NL No.70

==========

1 Toward the Autumn Conference
2 Latest trends of e-waste collection not covered by the recycling law
3 3Rs in Mexico
4 SWAPI Report
5 Activity Report from the young researchers' group

9 月 17 日～19 日は、研究発表会開催のため、事務局は不在となります。

廃棄物学会ニュース No.112　平成 21 年 9 月 7 日発行
一般社団法人廃棄物資源循環学会
〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492　http://jsmcwm.or.jp
印刷媒体は古紙を配合した再生紙を使用しています

会　員　状　況	H21.7.31 現在 (　)内は、H21.4.1 以降の増減
正 会 員	2,766　(-45)
学生会員	289　(+33)
外国人会員（DM）	23　(±0)
登録団体市民会員	6　(-1)
公益会員	95　(-2)
賛助会員	127　(-2)
計	3,306　(-17)

注）外国人会員(DM)は、一般社団法人廃棄物資源循環学会外国人会員規程第 5 条に定める会員を示す。

事務局だより

法人化された学会の今後の発展を目指すには、先の総会において報告された年間約 300 万円の支出超過を克服して、財政を健全化することが急務となっています。そのために、理事会を中心として、会員の増加による収入増と経費削減のための会員へのサービス低下をできるだけ抑えた事業の見直し・点検が行われています。しかし、これらの実現は容易なことではありません。その手段の一つとして、広報部会では昨年の学会ニュース事務局だより（No.104）でもお知らせしましたように、学会ニュースの見直し・点検に着手しています。学会ホームページ(HP)での学会ニュースの公開、メールニュースの運用開始、論文誌の電子化に伴う 2010 年からの学会誌の単独発刊、会員の HP 利用の一般化等の状況変化に対して、学会ニュースの記事内容と発行形態・体制および印刷物の発刊費の見直し・点検が早急に求められているわけです。学会ニュース発刊の意義と費用対効果を見極めて、学会での魅力ある広報媒体とは何かを考え、広報部会は関係委員会等と連携しながら、学会ニュースの見直し・点検の作業をすすめて参ります。　（谷川昇）

次号（学会ニュース No.113）は 11 月 13 日発行予定です。

※学会ニュースはホームページに掲載しています。印刷版の郵送が不要になった場合には、事務局までご連絡ください。